

別紙: 仕様書No. 北生発 20205029754号

イツモスマイル株式会社様

1. 試験目的 : 貴社製品, 「次亜塩素酸水」による試験菌に対する殺菌効力を評価する。尚、本試験方法は、試験品の基本的な殺菌効果を調べる試験系として、試験品に直接菌液を接種する方法を用いる。
2. 試験品 : 以下 1 種類
「次亜塩素酸水」^{※1} (想定している有効塩素濃度および pH をご連絡ください)
試験品の調製が必要な場合は調製水や調製方法をご連絡ください。
試験前に有効塩素濃度および pH を簡易測定器により測定します。
必要量: 50 mL × 5 菌分 = 250 mL + 予備分 ≈ 約 500 mL
^{※1}: 報告書に記載する正式名称を「試験依頼書」にご記入下さい。
3. 試験菌 : 以下 5 菌種 (菌株No.は仮です)
① *Escherichia coli* NBRC3972 (大腸菌)
前培養: TSA (Difco)・36 ± 2°C・18~24時間 (試験菌②③も同じ)
後培養: TSA・36 ± 2°C・40~48時間 (試験菌②~⑤も同じ)
② *Staphylococcus aureus* subsp. *aureus* NBRC12732 (黄色ぶどう球菌)
③ *Salmonella enterica* subsp. *enterica* NBRC3313 (サルモネラ)
④ *Bacillus subtilis* ATCC6633 (枯草菌, 市販芽胞液)
⑤ *Bacillus cereus* NBRC13494 (セレウス, 芽胞, 自家調製)
前培養: 芽胞形成培地等 (仮) で芽胞が形成されるまで培養
<試験菌液調製>
1) 試験菌懸濁液: 滅菌イオン交換水
2) 調製濃度: 試験品 1 mL あたり約 10⁵ CFU となるように調製する (約 10⁷ CFU/mL)
4. 試験方法
① 試験品を、試験管に 10 mL 分取し、恒温水槽内で一定温度 (25 ± 2°C) に保つ。
② ①に試験菌液 0.1 mL を接種し、ボルテックスミキサーで攪拌、混合して所定時間作用させる。
③ 不活性化剤^{※2}を用いて殺菌作用を停止させる。
④ ③を試料液として菌数を測定し、試験品 1 mL あたりの菌数を求める。
⑤ 定量下限値は 10 CFU/mL の予定。
⑥ 試験品のかわりに滅菌生理食塩液等を用いて同様に操作したものを対照とする。
⑦ 初期菌数と試験品の各作用時間後の菌数から LRV (log reduction value) を下記式より求める。
LRV (菌数対数減少値) = log₁₀ (対照の初期菌数 ÷ 試験品作用後の菌数)
^{※2}: チオ硫酸ナトリウム含む不活性化剤の有効性確認試験を行い、有効であることを確認する。